

修士の学位申請に関する手続き及び審査体制・基準等について

1 修士の学位

修士課程または博士課程前期課程に所定の期間在学し、当該研究科所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたのち、当該課程の目的に応じ、修士論文または特定課題研究成果報告書（以下、「修士論文等」という）の審査及び試験に合格した者は、その課程を修了した者とされ、修士の学位が授与されます（大学院学則第24条、第26条）。法学研究科では、法政研究コースは修士論文を、その他のコースでは修士論文等を提出して審査を受けることになります。

2 審査体制・方法

（1）審査体制

修士論文等の審査は、研究科委員会の定める審査委員によって行います。

審査委員は、当該修士論文等に関連ある研究領域の教員3名以上とし、主査を1名、副査を2名以上とします。ただし、特別の事情がある場合には副査を1名とすることがあります。

（2）審査方法

① 最終試験

修士の学位に関する最終試験は、修士論文等の提出者の研究成果を確認する目的をもって、審査委員が修士論文等を中心とし、試問の方法によって行います。試問は、口頭によりますが、筆答試問を併せ行うことがあります。

② 審査期間

修士論文等の審査及び最終試験は、当該修士論文等の提出期限後3カ月以内に終了します。

③ 審査結果

修士論文等の審査及び最終試験の結果は、研究科委員会の承認を得て決定します。

3 審査基準

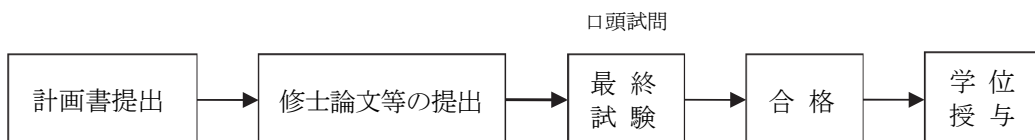
本研究科は、論文が、法学、政治学に関する特定のテーマについて、総合的な視点から整理・分析してまとめた研究成果として、あるいは、調査・分析に基づいて政策提言を行う研究成果として十分な水準に達していることを審査基準とします。

なお、「特定課題研究成果報告書」については、そうした内容をふまつつも、必ずしも独創性のある学術専門的な水準を満たすことを要せず、高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を示す内容が求められます。

その審査にあたっては、以下の評価項目等を考慮して、総合的に判断するものとします。

- ① 問題意識及び課題設定の明確さ。
- ② 論文の構成、展開、文章表現等の適切さ。
- ③ 先行研究や資料等の調査分析及び引用の適切かつ十分性。

4 学位授与までの主な流れ



5 スケジュール

詳細な日程は、別紙「提出要領」を参照してください。

期 限（期 日）		
事項	3 月期学位授与	9 月期学位授与
計画書の提出	10 月中旬	4 月中旬～下旬
論文(成果報告書)の提出	1 月中旬	7 月中旬～下旬
最終試験	2 月中旬	7 月下旬～9 月上旬

6 提出要件

修士論文及び特定課題研究成果報告書は、学位規程第9条に基づき、博士課程前期課程に1年以上在学し、所定の授業科目のうち、20 単位以上を修得後に計画書を提出しなければ、提出することができません。

7 修士論文等計画書の提出について

提出期の計画書（様式）は別紙を確認してください。

- （1）提出期限は厳守すること。提出期限後はいかなる理由があっても受理しません。
- （2）修士論文計画書提出に際しては、指導教員の承認を得てください。
- （3）既に提出した計画の変更は、認められません。ただし、論文（成果報告書）提出以前においては指導教員の承認を得て「論題変更届」を提出することができます。
- （4）計画書を提出したが、論文または成果報告書を提出しない場合は、指導教員の承認を得て「修士論文提出の辞退について」を教務センターへ提出してください。